

# 全国災対連・石川災対連合同ニュース

能登半島地震支援  
「全国災対連・石川災対連」現地事務所  
〒925-0026 石川県羽咋市石野町ト13-1  
TEL 080-8889-3402 Mail: z-shinsai@zenroren.gr.jp

2024年6月3日  
No. 3

## 第4次支援行動に全国から 21 人！ 能登町・志賀町での作業に奮闘！

全国災対連・全労連と石川災対連・石川県労連は5月31日(金)から6月2日(日)の3日間、第4次の支援ボランティア行動を実施し、部分参加を含め3日間で21名のなかまが支援を行いました。今回の支援行動には、地元石川県労連・石川災対連から10人のほか、単産からは自治労連5人、全教3人、日本医労連2人と全労連事務局1人が参加しました。



### 初日は能登町のお宅での運び出し作業



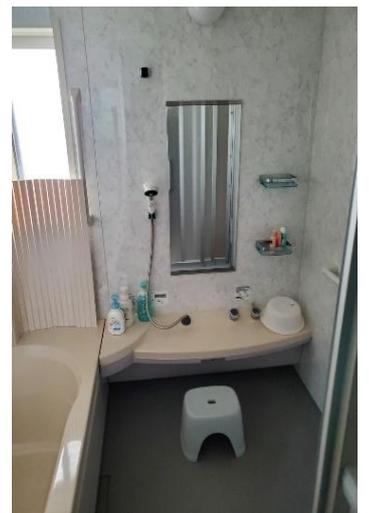
初日は能登町にある一人暮らしの女性のお宅での作業を行いました。現在避難生活中で、時々中規模半壊の家に戻って寝泊まりしているとのことですが、発災以降も傾きが進行しているといいます。「家屋は解体しても、小さな家でも建ててこの土地を守りたい」と話されていました。

この日の作業で軽トラ2台分のゴミを搬出し、処分場へ運搬しました。また、今回廃棄できない大型家具などを2階から1階に運びました。



## “新拠点” 穴水センター視察

羽咋の事務所とあわせ、奥能登支援への拠点として「穴水センター」を立ち上げました。同センターは穴水町大町の民家の借り上げで、羽咋の事務所からは車で約1時間の距離です。10人程度の寝泊まりが可能ですので、ここを拠点にすれば輪島市、能登町、珠洲市など奥能登地域での作業時間を大幅に増やすことができます。今回の第4次支援では参加者が少なく使用していませんでしたが、参加者で視察に行ってきました。視察を行った参加者からは「中がきれい」「ここなら泊まれる」「片づけに行っている被災地から近いのがよい」との感想が寄せられました。（穴水センターの住所は、〒927-0026 石川県鳳珠郡穴水町大町ニ-56）



## 2日目は志賀町のお宅での作業

2日目(6/1(土))は支援共同センターからの依頼で、志賀町赤崎の高齢のお一人暮らしのお宅での作業を15人でおこないました。ご自宅は「大規模半壊」と認定され、ご本人は現在も避難所での生活です。ちなみにご自宅から約18kmのところには北陸電力志賀原子力発電所があります(現在1号機・2号機とも休止中)。

作業は家財の片付けとゴミ出しでした。広く古いお家で、玄関前まで車が入ることができないため、車までの約30mを一輪車、二輪車と人海戦術で運び出しました。

この日だけで軽トラ2台と石川県労連の宣伝カーが2往復して災害ごみの処分場に運搬しましたが、この日は近くの処分場が受け入れを休止しており、車で30分かかる町内のもう一つの処分場まで運搬したため、すべての家財を運び切ることができず大きなタンスが3本残ってしまったのと、軽トラ1台分のゴミが処分場の終了時間までに到着できず羽咋の事務所に持ち帰りとなってしまいましたので、後日支援共同センターで対応する予定としています。



6月1日、田村貴昭衆議院議員が能登に視察に来られていました(写真左)。視察の様子は翌2日付「しんぶん赤旗」に掲載されています

## 3日目は輪島視察へ

3日目(6/2(日))は朝から雨模様となる中、輪島市の視察へ。被災直後の大火で全焼した輪島朝市通り、海岸の隆起が激しかった輪島港、そして、被災当初から診療を続けた石川勤労者医療協会輪島診療所へ行きました。

輪島市朝市通りについては、5月31日付の報道(右・NHK)で「環境省は解体や撤去を加速させると発表」「今週から解体や撤去が始まった」とのことでしたが、見た限り前回見た時(5/12)と光景はほぼ変わっていない印象でした。



## 石川 輪島 朝市通り 建物滅失登記完了 環境省が解体撤去を加速

2024年5月31日 16時28分 令和6年能登半島地震

能登半島地震で被災した石川県輪島市の「朝市通り」周辺の建物の滅失登記が完了し、所有者全員の同意がそろわなくても公費解体を申請できる状態となったことから、環境省は解体や撤去を加速させると発表しました。

環境省によりますと、輪島市の「朝市通り」周辺では能登半島地震でおよそ270棟が被災し、これまでに100件ほどの公費解体の申請を受けて、今週から解体や撤去が始まったということです。

建物の所有者全員の同意を集められないために申請できずにいるケースが一定数あるとみられていますが、緩和策として5月から導入された法務局による建物の滅失登記の手続きがこの地域について完了したことで、全員の同意がなくても申請が可能になったということです。

このため、環境省は住民に申請を呼びかけ、この地域の解体や撤去を加速させるとしています。

伊藤環境大臣は「復旧復興が進むと実感してもらうためにも、面的な解体撤去を加速化させる」と話していました。



## 追記：6月3日に珠洲、輪島で震度5強の地震発生

第4次ボランティアが終了した翌朝6時31分に、能登地方で最大震度5強の地震が発生しました。建交労石川県本部の東さんより、「今朝の地震の被害状況がテレビで放送されていますが、災害復旧で珠洲市狼煙町にいる組合員より、かなり凄い揺れだったそうで、被害を受けていた家屋が数件倒壊したとの連絡がありました」との報告がありました。石川県は5月20日に「能登半島地震『復興プラン』最終案」を発表しました。2032年までの9年間で「創造的復興を図る」としていますが、私たちがこの間支援で現地で見たり聞いたりしていると、崩壊した家屋やがれきが5カ月を経ても片づけられもされていない、未だ水道も通っていない地域、避難所生活を今もって強いられている人たちの思いとあまりにもかけ離れすぎているのではないかと、この思いを強くします。6月以降も支援ボランティアは続きます。全国の多くの多くのみなさんの参加を呼びかけます。